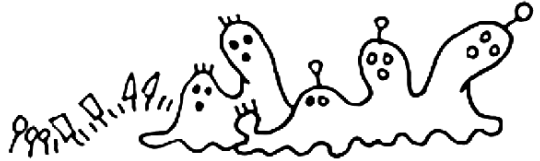




全国の対話と物議の土壌をかもすニュースをお届けします

かもす通信

はたらく女性の全国センター（ACW2）



イラストレーション/ナガノハル

特集

定期大会のご報告



もくじ

-
- | | |
|---|--|
| 02 第16回大会報告 | 14 予告編「あなたの『はたらく』をおしえてください」
会員アンケートをやってみよう仲間ゆる募 |
| 05 大会終了後にいただいた感想の一部をご紹介します | 15 ひとことメッセージ |
| 08 活動報告 | 16 編集後記 |
| 09 続・素の自分で | |
| 10 書評「極度の無関心を超えて」 | |
| 13 私たちは、何故 協同組合法人に関心を持ったのか
話し合ったこと | |

第16回大会報告

去る2月27日(日)午後2時～5時、第16回大会が、ZOOM会議にて行われました。

ご参加の皆様、お疲れさまでした。22人の参加でした。ご参加いただけなかった方々は、この報告で少しだけ、雰囲気味わっていただければと思います。

今回は、小グループ制になって初めての大会です。そこで、大会自体も「実行委員」という小グループにて準備することになりました。1月16日のかもすワークショップをやっている中から、名乗りを上げた4名です。

2月2日、16日、23日とZOOMでミーティングを行うとともに、分担した作業は

- ・ 各小グループに報告を原稿にして提出して貰う依頼
- ・ 遅れた原稿については督促
- ・ 原稿の繋ぎ合わせと議案書化
- ・ 当日(3時間)に必要な役割洗い出しと分担依頼
- ・ 当日シナリオなどの簡単な確認

等をお互いに確認し合いながら、進めました。

その甲斐と参加者皆様のご協力がありまして、予定通り大会を実施することができました。原稿提出に協力してくださった各小グループの皆さん、ZOOMホストを引き受けてくださった佐崎さん、ありがとうございました。

進行は佐野佳子さんが担当。いつも通り、**アイスブレイク**(松岡さん担当)から始めました。「今日の気分を色に例えると?」と「呼ばれたい名前」を順番に言って行きました。

続いてこれも恒例、話し合いのルール読み合わせ、私高木が読みました。

次は今期のACW2全般の活動報告から。

コロナ禍で非正規の多いACW2では、会員の財布も困窮し、会費が払えないと一時退会する方もありましたが、そんな中でも入会11人退会5人正会員328人サポート会員62人、合計390人(2021/12/31現在)となりました。

昨年2021年2月27日(土)の定期大会でソシオクラシーへの変革が提案され、臨時総会を8月7日(土)に方向転換を実施することに決まりました。(資料⇒<http://wwt.acw2.org/?p=5318> あるいは下記QRコードご参照)



臨時大会については、かもす通信53号をご参照ください。

下記は、小グループの活動報告の要旨です。

◎事務グループ（松岡さん）

月2回事務所で、家賃・電気代等の支払い、入出金等の会計ソフトへの入力等を行った。

◎広報グループ（佐野佳子さん）

かもす通信の発行（2回）来年は4回に戻す予定。

◎はたらく女性の全国ホットライングループ（小園さん）

1年間で90回290件の相談を受けた。

2つの助成金132万円を得て、財政から1回線にしていたフリーダイヤルを2回線にて実施することができた。

またボランティア相談員の交通費（1回定額1000円）を支給もできた。（新潟は辞退。）

◎知って役立つ労働法講座（佐埼さん）

7月～9月、3回にて実施。全回でも単発でも参加できるようにした。

講座内容は、厚生労働省の「知って役立つ労働法」をベースに働く人が職場のトラブルで困った場合に具体的に役立つ内容とした。グループセッションを取り入れ、参加者から好評を得た。

◎共育小グループ（伊藤さん、おーやんさん）

小グループ作りのための『かもすワークショップ』

韓国・アメリカの教材を参考に、「運営・課題趣味など」ごとに小グループを作り、サポートし合う組織（ソシオクラシー型）への変革を進めるためにはどうすればよいか、をワークショップで学んだ。

1対1の関係から小グループへと関係を深めていくことから、小グループの運営について使えるチェックシートまで。参加者から好評を得た。

（資料⇒<http://wwt.acw2.org/?5563> あるいは下記QRコードご参照）



◎読書会小グループ（松岡さん）

読書会は何年も前から引き続き行ってきて、小グループの一つになった。

現在はトロント、J.&岡野八代（2020）「ケアするのは誰か：新しい民主主義の形へ」白澤社を月一回読書中。

あと3人まで受け容れる余裕があるので、参加希望者はご連絡ください。

◎ちまちま手仕事の会（高木）

月一回オンラインまたはリアル（事務所）でそれぞれの手仕事（編み物・刺繍・漫画・イラスト作業をしながら4名～7名くらいで、日常のあれこれやオススメの本や映画、政治のことなどを話している。

◎性と自分を話す会（Sさん）

性に関する深いわかち合いのできる場になっており、お互いの話を聞きやすい人数に達しているため、新しいメンバーの募集はしていません。

特定の人にしか話すことのないバックグラウンドなどがあることを前提に話しているから楽であるとの感想でした。

◎その他 会員の活動報告

はむねっと（瀬山さん） 1周年ハイブリット集会有り

当事者中心に活動中。アンケートの公表もあり、注目を浴びた。ACW2 で出会った人が活動に入ってくれたりしている。これからも、頑張りたい。

ホームヘルパー国賠訴訟（伊藤さん）

証人尋問不要との裁判官意見で、原告の証人尋問くらいはやらせてほしく、裁判官忌避申し立てした。岸田総理になって急に賃上げと言い出したが、予算をよく見ると2月～6月までは予算に盛り込まれているが、それ以降は削られている。しかも事業所に賃上げ分を立替払いしておけというのでは、小さい事業所は潰れてしまう。

◎決算書について

（田中：会計監査）主な収入源は年会費と寄付。協同組合など仕組みを考えてみるのはいかがでしょうか。来期収益事業を検討していく。続いて質疑応答。

◎主な意見交換

元運営委員の参加者からの意見「議案書3頁、コロナ禍の中でACW2の組織なあり方をトップダウンで決めていく運営委員会方式から会員相互の関係性を重視するソシオクラシー（小グループ）への変革を長時間の対話の中で合意しました。」この『トップダウン』というのは違うと思う。そういう意見もあるとは思いますが、意見の違いについて議論もしていなかったことから、議案書については、『トップダウンで決めていく』は削除することで合意しました。

◎来年度の活動予定などの報告

◎最後に4グループに分かれて どんなことがやりたいか話し合いました。

訂正後の議案書はホームページからダウンロードできます。<http://www.acw2.org/?p=5577>



大会終了後にいただいた感想の一部をご紹介します

今日は、たくさんの方とお話できてよかったです。共同組合をどのようなものにしたいのか、楽しみです。

M.M

ご準備ありがとうございました。

活動はしたいことがある人が集まっていてそれがうまくまわるときは盛り上がるけれど、そんなときばかりではないと思います。なので、運営委員会がうまく機能しなくなって、いまのやり方になったのだと思います。

気持ちに余裕がないと、ACW2の会議には出づらいです。やりたいことがあって当然という圧のようなものを感じてしまうから。

私はいまはフォロワーでいさせてほしいと思います。できることはなにかと考えながら。k

佐野さんをはじめ、定期大会をご準備されたみなさま、お疲れさまでした。前半の活動報告のみの参加でしたが、各グループの活動が簡潔にまとめられていて、分かり易かったです。1時間という時間配分もちょうど良かったと思います。対面での報告が復活したら、各グループの活動の雰囲気なども知ることができるのを楽しみにしています。

AGURI

本日はありがとうございました。途中からの参加でしたが、定期大会に参加して、ACW2の活動について知ることが出来ました。ブレイクアウトルームで皆さんとお話出来たことも楽しかったです。これからもどうぞよろしく願いいたします。

木村敦子

小グループで話すのを目的にしたワークショップを定期的にするのもいいと思う。

(今日の皆さんの感想から)

高木真紀子

サービスする人と、される人という関係性ではなく小グループを試行錯誤して1年ですが亀のような歩みでしたが少しずつ形ができてきた感じがします。絶望の中でも一人ひとりに灯火かともるように。

伊藤みどり

途中で退出してしまい申し訳ありませんでした。総会運営スタッフの皆様ありがとうございました。新組織が少しずつ動いてきている様子がわかってよかったです。少人数でのグループトークで会員の皆さんと身近にお話できたのもうれしかったです。その中で新しい小グループ活動のアイデアなどもうかがえて、今後は楽しみになってきました。

かな

今日はありがとうございました。

直前に申し込み申し訳ありませんでした。

街歩きの反響が結構あって、ビックリしました。またよろしくお願いします。

きやま

定期大会、お疲れ様でした。終了予定時間の1分前くらいに終わってすごいなと思いました。参加する前はどれも緊張するのですが、少人数でのブレイクアウトルームでは思いのほか自分のことを話せました。お互いにケアし合うことやその報酬をどうするのかなど、短い時間でも話せて良かったです。

ケロ

初参加で、事情により主に音声を聴かせていただくだけになりましたが、他の参加者の方々がそれを受け入れてくださり感謝しています。

運営について目を向けるきっかけになりました。またブレイクアウトルームでは、参加者の方々の個人的な経験や近況をお聞きできて、距離が縮まった気がします。定例会でも話が出ていたように、今後単発の交流会があれば参加したいと思っています。

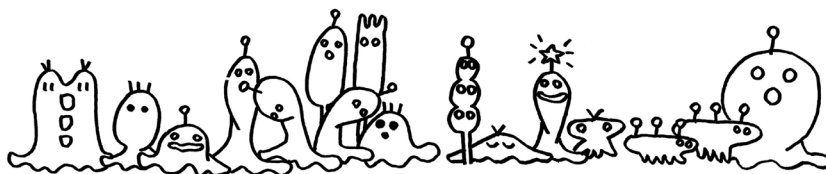
定例会のご準備、運営等、ありがとうございました。

まき

オンライン越しでしたが、ACW2 関係者のみなさんに会えてよかったです。気になった点は、運営委員会方式ではなくなったACW2での、今後の組織としての意思決定の仕方についてです。組織として動いていくとしたら、意思決定のプロセスが、会員に共有されていることや、関わり方がわかっていることが大切だと思います。

「組織として動いていく」ことのイメージの共有や、その必要性をめぐる意見交換も、必要なのかなと思うのですが。それでも、総会で、数名の方が、とにかくこの人たちと顔をあわせると、安心する、緊張しなくてよいのがいい、といていたのが、印象に残りました。総会に集まったたちにとって、ACW2 が、安心できる場になっているのはとてもいいなと思いました。

(S/N)



小グループ活動の 連絡先

運営系小グループ

- 連絡調整office@acw2.org
- 事務・会計Administration@acw2.org
- かもす通信・広報tsushin@acw2.org
- 協同組合(案)検討FY@acw2.org

事務系小グループ

- ホットラインhotline@acw2.org
- 講座など共有Education@acw2.org

会員相互交流グループ

- 読書会bookdiscussion1@acw2.org
 - 性と自分を語る会sexushariti@acw2.org
 - ちまちま手芸の会join@acw2.org
- (他は準備中)

小グループ活動への参加や設立ほか、さまざまなお相談は、
連絡調整グループ→ **office@acw2.org** (佐野)までご連絡ください。

活動報告



1月7日(金)	会計
1月8日(土)	大会準備実行委員会
1月13日(水)	ちまちま手仕事の会 6人
1月16日(日)	第4回かもす講座 小グループ作りのためのワークショップ 9人
1月22日(土)	性と自分を話す会 4名
1月27日(木)	ZOOM読書会 ケアするのは誰か 8人
1月28日(金)	会計
2月5日(土)	会計
2月10日(木)	ちまちま手仕事の会 5人
2月16日(水)	大会準備実行委員会
2月19日(土)	大会準備実行委員会
2月20日(日)	第5回かもす講座 小グループ作りのためのワークショップ 9人
2月22日(火)	会計
2月24日(木)	ZOOM読書会 ケアするのは誰か 8人
2月27日(日)	第16回定期大会ZOOM 22人参加
3月5日(土)	会計
3月18日(金)	ちまちま手仕事の会 5人
3月19日(土)	性と自分を話す会 4名
3月20日(日)	非正規公務員ネット ハムネット結成1周年集会 ACW2賛同
3月31日(木)	ZOOM読書会 ケアするのは誰か 8人
ホットライン	毎月 5日、10日、15日、20日、25日、30日。第2・4日曜日(3月まで)。

続・素の自分で

あっこ

前号のかもす通信で、同年代の人とかかわりたいけどこわい、という自分の話を書かせてもらった。もう少し、このことについて考えてみたいと思い、今回も文章を書いた。

私は小さな工場でバイトしている。先日、私と同年という女子がパートで入ってきた。とても緊張したけど自分から挨拶した。その新しく入ったパートのAさんも、笑顔で挨拶してくれた。その日はそれで精一杯だった。私は、年齢の近い人とかかわるのが苦手だ。社会人になってからも交流する機会があったが、なかなか長続きする関係にはならなかった。

Aさんは、結婚していて子どもがいる人だ。独身で子どもがいない私、「その年齢になっても結婚していないの？」という目で見られるかも知れないと考えてしまうのがしんどい(そんなにあからさまに他人から言われたことはあまりないが……)。結婚だ年齢だに、自分自身がとてもとらわれていると感じた。なんとなく、子どもがいる人に気後れしてしまうときもある。

同年代の人と接するのがどこかつらいのは、子どものころに感じていた引け目や嫉妬心、対抗意識みたいな気持ちを、いまだにまざまざと思い出させるからなのだと思う。いつか同年代の人とも気後れしないで話したいと長い間ずっと思っていた。でも、気持ちがヒリヒリするばかりでとにかくつらい。学生だったとき、同年代の人から「バカにされた」と感じたことが何度かあったが、そのうちのいくつかは私の被害妄想かも知れないし、そしていくつかは相手に本当に悪意あったのことだったと思う。そして、私もまた、同年代の人から嫉妬されて、嫌なことをされたこともあったのかもわからない。

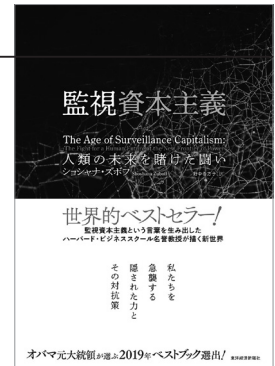
きっと、本当に満たされている人は、相手がなんだろうと、いちいちそれを口に出して、ましてや人と一緒になってどうこう言わないだろうと思う。

踏み込むのがまだ少しこわい。でもAさんと、仕事以外の話もしてみようと思っている。少しずつ、いろんなことを、分かち合ってみたい。好きな漫画やアニメのことだったり、文章を書くことやミシンで服を作ること、フェミニズムの本のこと。Aさんは何が好きなんだろう？

「極度の無関心を超えて」

『監視資本主義: 人類の未来を賭けた闘い』

シヨシャナ・ズボフ



ナガノハル

この本の最もたる特徴だと私が思うのは著者が「極度の無関心」と指摘するところだ。

監視資本主義とは主にグーグルやフェイスブックにおけるインターネット上での履歴監視、追跡、例えば、検索した用語の履歴の何番目を何秒後にクリックしたか、Kindle で読んでいる本の何ページに何分費やしたか、あなたのスマホがどこにあるか？などなどのいわゆるパンクズリストと呼ばれるものを膨大にビックデータとして蓄え、それをもとにしてあなたの欲しがりそうなものを広告として表示することをもとに始まった。これは広告ターゲティングモデルとして、よく知られている。それこそが、グーグルやフェイスブックを無料で利用できる理由だ。あなたの個人情報が入札されて、売られている。入札は人工知能により自動化され、驚くほど細分化された特性の「人間」に届けることができる。あなたのフェイスブックのニュースフィードはより、滞在時間を長くさせるためにパーソナライズ（個人別にいいねやクリックした記事などをもとに最適化されること）されている。Instagram (meta (旧フェイスブック) に買収された)、ティックトック、ツイッター、YouTube、どれもこれも同じ原理で動いている。グーグルやフェイスブックのビックデータの個人情報保護の違反に対する警告は特段新しいものではないが、それまでは、無料のネットサービスを使うとは「あなたが商品なのだ」と言われてきた。この本はそこから一歩すすめて、そのようなネットワーク上での様々な足跡は行動余剰という原材料であるとみなしている。それは産業革命が天然資源材を収奪してきたことと同じと見なされるのだ。少し長いが、引用しよう。「監視資本主義は人間の経験を、行動データに変換するための無料の原材料として一方的に要求する。これらのデータの一部は、製品やサービスを向上させるために使われるが、残りは占有的な行動余剰と宣言され、「人工知能」と呼ばれる先進的な製造プロセスに送られ、わたしたちの行動を予測する予測製品へと加工さ

れる。最終的にこれらの予測製品は、新種の行動予測市場で取引される。その市場をわたしは行動先物市場と名づけた。」私もそうだったのだから、あなたはインターネットの履歴をグーグルやフェイスブックが無限に保存していることをどう考えるだろうか？その監視にはプライバシーが一切ない。というか、著者はプライバシーと独占禁止法では圧倒的シェアを誇る両者を止めることはできないと結論づけているが、何しろフェイスブックもグーグルも頻繁に国やEUから訴えられているが、その莫大な富と専有率の高さから、まるでダメージを受けていない。それは、歴史的に初めての収奪のため、まるで、全体主義が初めての現れた時のように言い表すべき言葉がないのだ。

私やあなたかインターネットの履歴にさして注意を払わないのは、私たちが悪いのではない。「極度の無関心」こそがこの監視資本主義が最も大切にしていることであり、私やあなたに気づかされたくはないのだ。例えば、グーグルはグーグルマップを作るにあたり、街角を所構わず撮影しまくることで数多訴えられたが、その地図の完成スピードの早さと訴えられても我関せずの姿勢で、私たちがグーグルマップというものを受け入れることが当たり前のように思わせた。実際、私は随分昔はGPS（位置情報）をスマホでオンにするのを戸惑ったものであった。私の歩いた道をグーグルが記録してくるなんて、気持ち悪いなあ。ストーカーと一緒にいる。だが、今は受け入れるしかない。なるべくオフモードにはしているが。というのも、何気なくスマホのGPSを見てみたら、履歴を36ヶ月残すがベース設定になっていたのである。このベースの設定が限りなく使用者の記録を取り続けるようにされているのも「極度の無関心」を引き起こす姑息な技である。よく言われるのが「私は別に秘密にしていることなどないから見られてもいい」ということだ。しかし、何十年と記録されるそれらはいつでも簡単にグーグルやフェイスブックなどには検索可能であり、あなたの未来にとって、何の情報もマイナスとなるかなどわからない。そして、そもそも、人間には誰にも監視されないインターネットというものが必要だ。黎明期のインターネットはそういう力学のもと動いていた。ハッカーたちは「無料（フリー）で自由（フリー）」をもっとうとした。グーグルだって、フェイスブックだって、最初は広告収益モデルを拒否していたのだ。だが、マネタイズの必要性に迫られ、採用した。何しろ利用者からは金が取れない。そして、その広告収益モデルに深くかかわっていたのがあろうことか、シェリル・サンドバーグなのである。彼女はグーグルで働き、その後、フェイス

ブックに転職している。「99%のフェミニズム宣言」では、シェリル・サンドバーグに代表する「リーン・インフェミニズム」を名指しで批判した。だが、ビッグテックの1%の富を築くまさに要であることは一切書いていない。彼女の著作だけに注目せず、仕事そのものにこそ注目すべきであったと私は思っている。この本は何しろ600頁もあるし、6000円もする。人気なので図書館の順番待ちリストも長い。だが、労力とお金をかける価値はある。何しろ150ページに及ぶ参考文献の山がついてくる。著者の主張に納得できないとしても、これほどの参考文献は他に類を見ないので買う価値があるので、ぜひ読んで欲しい。というか、インターネットの仕組みやその歴史に興味を持ってほしい。ソーシャルメディアで言い争う内容ではなく、なぜ、そもそも、そのセリフがあなたの目の前に現れたのか？それが重要だ。

一万年生きた子ども—統合失調症の母をもって ナガノハル

精神障害のある人が400万人を超える時代。

あなたのそばに「一万年生きた子ども」はいませんか？



【あらすじ】妄想にとらわれ何度も失踪する母。連れ戻しに行く8歳の私。仕事で家にいない父。平穏なふりをする学校での生活。やがて成長した私は、希死念慮や心身の不調で生活がままならなくなり……。 「一万年生きた子ども」は、子どもとして生きることができず、大人になってからも悩まされた経験を表す言葉。

いま、「精神疾患のある親をもつ子ども」を、ヤングケアラーという社会問題として認識する機運が高まっています。しかし、精神疾患についてはいまだに差別や偏見の目が強く、当事者の多くが「まわりに言えなかった」「家族の存在が恥だと思っていた」と支援につながりにくいのが現状です。

当事者が「私のことかもしれない」と手にとり、気軽に読める本を、という問題意識から本書は生まれました。

小説のように一気に読めるのが魅力です。

私たちは、何故 協同組合法人に関心を持ったのか 話し合ったこと

イトウ

コロナ禍以前から、ACW2 の中では「週3日の賃労働でも生きさせろ」「資格があっても輝けない」など、短時間パート、副業、兼業、制約ある女性たちの「はたらく」について「100年ビジョン」の中で言葉にして問題提起をしてきました。

長引くコロナでさらに生活が困窮している会員が増えています。そんな中で昨年あたりから友人の死や病気、介護の問題に接することも増えて、いわゆる困窮者就労支援では負のループに置かれてしまう。支援される側の気持ちもつらい。そんな中で協同組合法人に関心を持つ数人で話し合いが始まりました。

「はたらく」を見直して助け合える組織を夢見て

現在、案として出ていることを報告します。実際に知人の女性グループの編集プロダクションの協同組合の実践をしている人などの話を聞く、インドの SEWA (協同組合と労働組合とガンジー主義の併せ持った組織 = インド自営女性協会 <http://www.sewa.org/>) の実践から学ぶなどです。東アジアの女性労働団体も協同組合を併設した実践があります。それは企業に雇用されることが困難な中で協同して少しでも仕事をして収益も得られる事業をしてみるという実践です。一緒に考え検討する仲間を募集します。同時に「居場所」も考えています。近くに「木が多くてバーベキューもできるような場所がいいね」などなど夢見ることは現実への一歩と信じて。一緒にやってみたいかた募集中です。

参考文献

- ・ワーカーズ・コレクティブ (社会運動 No.443) 市民セクター政策機構編集部 (著)
- ・協同ではたらくガイドブック 一般社団協同総合研究所 <https://jicr.roukyou.gr.jp/>
- ・〈必要〉から始める仕事おこし:「協同労働」の可能性 (岩波ブックレット NO. 1059) 日本労働者協同組合連合会 (著)

☆協同組合(案)検討グループ 募集中

問い合わせは FY@acw2.org

予告編

「あなたの『はたらく』をおしえてください」 会員アンケートをやってみたい仲間ゆる募

小園弥生

いろんな働き方、おしごと、家庭内労働事情、制約、体調、趣味癒しなどの組合せは十人十色。

「はたらく」は賃労働だけではない、

自他へのケアも大事な部分という ACW2 の 100 年ビジョンをうたっているわりには
会員のこと？ お互いのこと？ あまり知らなくて残念です。

とくに近年入会の方たち、世代の違う方たちはどんな状況、感覚なのか知りたいです。

結果は 1 人半ページずつ、通信で特集にしてもいいし。50 人は集めたい。

いや、アンケートよりも、おしゃべり会の方がいいのかな。

などと、長年勤めた職場の退職を機に、つらつら考えています。

身辺落ち着いたら（夏かなあ）企画したいです。

ごいっしょする仲間を求めています。



office@acw2.org までお問い合わせいただきましたらお繋ぎします。

ひとことメッセージ

「シェルブールの雨傘」はフェミ映画とおもいます。

そのような切り口の評論があれば教えていただきたいです。

まこと

春闘とかベアとか、時給ではたらく私にはなんにも関係なさすぎて

毎年冷めた目でニュース見えます。

singforfuture

梅干しとぶどう山椒に猛烈に惹かれています。

今年は、人生で初めて梅干しを漬けるよ。

さのよ

ケア中心の社会が良いと思っている人たちとゆるく広くつながりたいな、

それをベースにして、生活の困り事を助け合う身近なつながりも作りたいな。ピヨン

ロシアのウクライナへの侵攻で始まった今回の戦争。私は、マスメディアがどの情報を切り取って、どのように見せているかとても気になっています。争いが続かないように努力するよりも、むしろ争いが続くような流れを世界中で作っていないか心配しています。

日々基

春巻きを初めて自分で作ってみました。里芋と海老の春巻き美味しかったです。

最近は色々な揚げ物にチャレンジしています。

あっこ

編集後記

■地球環境が壊れてきた上に、コロナ感染、ロシアのウクライナ侵略。不安が加速することばかりで苦しくなります。戦争をしてしまう社会の反対側はケアをしあう社会。

何気ない日常の感動や野に咲く花々、青空と重なり合う雲、そんな単純なことに感動する連続を忘れないで走らないで地に足をつけてゆっくり協同を夢見ています。(M)

■私の気に入っていた梅干しが、かなり値上がりして手が出せなくなってしまいました。プラスチックゴミも気になる。でも食べたい。考え抜いて自分で作ることにしました。6月には梅が出回ることでしょ。そのころ次号を発行できるといいな。

個人から世界までいろいろなところでひどい事が起きていて、怒りや悲しさだけでなく、うれしさや楽しい気持ちさえなかなか言葉にできない場合が多いと思います。今回、原稿を寄せてくださった方々ありがとうございました。いろいろな声を聞けてうれしかったです。(さのよ)

はたらく女性の全国ホットライン 0120-787-956

毎月0と5のつく日 5・10・15・20・25・30日

平日 | 18:00~21:00 土日祝 | 14:00~17:00

会員のあなたもぜひご利用ください。毎月5日はセクハラ集中相談日

住所 | 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階

TEL | 03-6803-0796 FAX | 03-6803-0726 e-mail | office@acw2.org

HP | <http://www.acw2.org> Twitter | <https://twitter.com/acw2org>

正会員年会費 | (性自認女性) 1口 3,000円 オプション5,000円 または 10,000円
生活困窮者2,000円

通信/サポート会員 | (男性も歓迎) 1口3,000円(何口でも可)

郵便振込 | 00130-1-669637

銀行口座 | 三井住友銀行 渋谷支店 普通8658522



感想など
会員のおたよりを
お待ちしております

こんな記事が読みたい、誰々さんに書いて欲しい、このテーマで書いてみたいなど、思い立ったらぜひ下記メールアドレス宛にご連絡いただけると嬉しいです。
※編集メンバーも募集中。ご連絡お待ちしております →→→ tsushin@acw2.org

2022年4月発行 第54号/編集・発行 はたらく女性の全国センターACW2

ホームページ、ツイッター、会員メーリングリストで毎日情報更新中